

請 願 文 書 表

(都市計画局)

受理番号	350	受理年月日	令和6年9月17日
件名	バス事業者への支援強化		
要旨	<p>今年6月1日から、西京区のほぼ全域と南区、伏見区の一部のバス運賃が値上げされた。</p> <p>2月の市長選挙でも、市長就任直後の3月市会でも市長は、市民生活への負担を避けるため、徹底した経営改善を推し進め、国との連携で財源を確保し、市バスの運賃改定回避に向けて全力で取り組むと発言した。これは市民との公約であり、市長として市バスの運賃改定回避の方向性を示したものである。3月末の値上げ発表に、西京区でバスを利用する地域住民や西京区等への通勤・通学等でバスを利用している方々は寝耳に水であった。</p> <p>突然のバス運賃値上げや洛西地域での路線の変更に伴う減便等について、繰り返し交通局や京都市に市民への説明会を求めてきたが、何ら説明もなく、行政としての説明責任を果たしていない。西京区の地域住民や市民から、バス運賃の値上げを中止するよう求める署名が短期間に3,100人を超えて集まり、市長に提出をしたが、バス運賃値上げは強行された。</p> <p>市長は、値上げを回避できるのは均一運賃区間だけと発言したが、諸物価の高騰が続いて暮らしの厳しさが増しているのは、均一運賃区間外に暮らす私たちも同様である。とりわけ、均一運賃よりも高い運賃（阪急桂駅から洛西バスターミナル、阪急桂駅から京都駅は240円、桂坂から京都駅は300円など）が大きな負担となっている地域で、今回20円、30円と運賃が上がり、他の地域との運賃格差は更に広がった。</p> <p>そもそも都市計画として洛西まで延伸するはずであった市営地下鉄がいまだ運行していない。西京区でバスは唯一の移動手段である。バス運賃値上げ、路線変更・減便による地域住民への負担、外出の抑制を余儀なくされている方々にとって、その影響で暮らしが大きく変わってしまった。</p> <p>敬老乗車証の高い負担金を払えず、敬老バス回数券を申請した方は、回数券に20円、30円の小銭を添えてバスに乗ることになり、更に利用回数が減り、高齢者の外出抑制に拍車が掛かる状況になっている。</p> <p>京都市は、昨年夏頃には京阪京都交通の運賃値上げを知っており、市民生活への負担を避けるという立場で考えるならば、運賃値上げを回避するためにできることを検討し、対策する時間は十分あったはずである。今からでも京阪京都交通と協議等を行い、運賃を元に戻していただきたい。</p> <p>今年度、市として市バスと民間バスの赤字路線の維持をするための予算2億9,500万円を計上した。また、市の2023年度決算は88億円黒字という報道もされている中で、6月からの運賃値上げによる利用者の負担増分は約1億円であり、市バス・民間バス事業者への支援予算を増やすことで、値上げした運賃を元に戻すことも可能である。</p> <p>については、公共交通を優先したまちづくりを更に進めるために、物価高騰下の市民生活を考え、運賃値上げを回避するためにも、市民が公共交通を利用しやすくするためにも、更にバス事業者への支援を拡充することを願う。</p>		
請願者			
紹介議員	くらた共子、とがし 豊、平井 良人、河合ようこ		
付託委員会	まちづくり委員会		